

2022年(令和4年)

赤目まちづくり委員会・市民センター



6月号

# 赤目まちづくり通信

発行/赤目まちづくり委員会(赤目市民センター) 〒518-0465名張市赤目町丈六238-1

E-mail: akame-ko@emachi-nabari.jp

TEL&FAX: 63-0329

## ウイズコロナと共に新たな生活を。

赤目まちづくり委員会 会長 藤村純子

野山の緑も一段と深みを増して参りました。4月の総会により前会長亀本和丈様の後を引き継ぎ、会長をさせて頂くことになり1ヶ月がたちました。

これからは、微力ではございますが女性の目線で、見たり・聞いたりしながら少しでもまちづくり活動に生かしていけたらと思っています。私は、赤目に生まれ育った者として、地域で活動出来る事を嬉しく思っています。また、いろんな事にチャレンジする事が大好きで、若い頃から始めたバレーボールは今でも少しだけ参加し、父の亡き後は、小さな畑で野菜づくりも始め今を楽しんでいます。

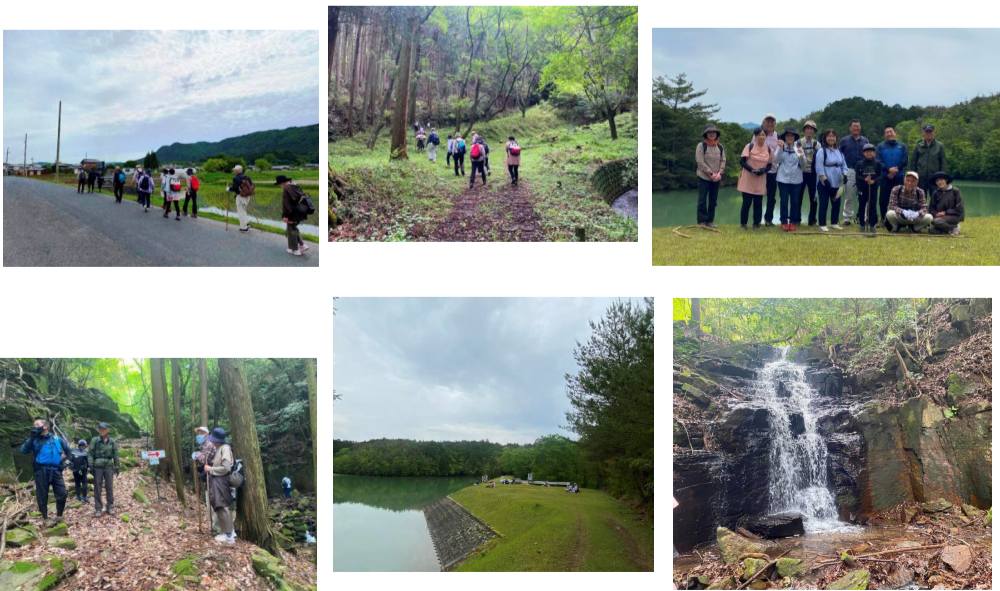
しかし世の中では、2年前より世界中を震撼させているコロナが広がり、いまだ終息は見えてきていません。そんな中私達の生活は著しく変わってしまいました。特に地域での伝統行事や多くの人々が集まる会議や、人々の憩いの場となっている地域のサロンなどが出来なくなった事、日常でのマスクの使用などにより人々の表情が見えにくくなって来ている事で、認知症や心身に不安を感じる人が増えてきています。本年に入りコロナ感染も少しずつではありますが、減少して来ています。地域における諸行事につきましても、コロナを理由に中止や延期はたやすく出来ますが、私達まちづくり委員会、並びに市民センター行事につきましても、地域住民の皆様方の感染予防対策はもちろん主催する側と致しましても安全対策を充分に行いながら、まちづくりの事業や地域でのサロン活動など工夫を重ねながら、取り組んでいかなければならないと考えています。

家に閉じこもりがちな高齢者の皆様方や子ども達の明るい元気な声が赤目中に響き渡ることを願いながら、まちづくり活動を進めて行きたいと思っています。今後とも皆様方のご理解とご協力と行事等への、さらなる参加をお願い申し上げます。

## 竜神山トレッキングを実施

5月15日(日)前日までの雨模様の中、お天気に恵まれ竜神山トレッキングを開催。9時に赤目市民センター集合、ラジオ体操・注意事項の後、9時半出発。

星川集会場でトイレ休憩の後、いよいよトレッキング(登山)開始、溪流沿いに新緑の山道を登り石切り場・不動滝へと。谷川を横断し檜林を経由して七つ池に到着。11時にちょっと早いお昼ご飯を取って、尾根沿いに竜神山三角点へ。山神さんの石碑を通過して、竜神の祠へお詣りを済まして、大岩経由・ビューポイントで宇陀方面・赤目口駅方面を展望、落ち葉を踏みしめ下山。14時にはセンターに無事到着。参加者の方々には、緑の中の山登りとあって清々しい笑顔が印象的でした。



## 丹波篠山メンマ作りを見学

赤目竹あかりSDGsプロジェクトでは、5月8日(日)放置竹林の幼竹を使ったメンマ作りに取り組んでいる「村の駅・真南条(まなんじょう)」(兵庫県丹波篠山市真南条)を見学。早朝よりバスに揺られ約2時間半、丹波篠山の真南条営農組合へ。多くの農業ボランティアさんが1.5m近くに伸びた竹の子を切り取り、皮をむいて硬い節の部分を落とし短冊に、約一時間大釜で茹でたのち塩漬けにして、メンマの完成。

公民館で酒井組合長さんからメンマの作り方など説明を聞き、ボランティアの皆さん・栄養士さんが作って頂いた美味しいメンマ料理を頂き、篠山城を見学し、一路帰宅。ゴールデンウィーク最後の日ではありながら混む事も無く無事に帰りました。お世話になった真南条の皆様方、本当にありがとうございました。



## 憩いのサロン「ほしかわ」開催

5/15(日)午前中星川集会場で今年3回目の憩いのサロン「ほしかわ」が開催。高齢者や子供たちとの昔遊びと共に、今回は婦人部の参加もあり、にぎやかに楽しく自作のTシャツプリントを体験しました。これからも毎月第三日曜日の午前9時半より開催予定。



### 「みんなのゆめひろば」利用案内

1. 門扉は常時開いていますので、他の利用者に配慮してご利用ください。
2. 車の駐車は、入口の左右にお願いします。中央部への乗り入れは禁止です。
3. 広場には、トイレはありません。

カラーコピー、スキャンニング等サービスも行っています。詳細は、市民センターまで、お気軽にお尋ねください。

**名張市指定ゴミ袋取扱、紙おむつ専用ごみ袋(無料交付)**  
特大 45リットル 10枚 480円・大 30リットル 10枚 300円・中 20リットル 10枚 180円・小 10リットル 10枚 80円  
紙おむつ専用ごみ袋は、対象者一人当たり30枚以内。

赤目まちづくり委員会  
赤目市民センター

ホームページ



赤目まちづくり委員会・市民センターの情報がホームページでご覧いただけます。  
※スマホ・携帯電話で左のQRコードを読み取って下さい。

# 子供も大人も、参加自由 ホタル観賞の案内

赤目のゲンジボタルを鑑賞しませんか。



6月の赤目には、大粒の源氏ボタル「丈六ボタル」が飛来。虫のことを学んで・知って、赤目の自然に親しもう。

日時 / 6月19日(日)19時30分~21時00分

集合場所 / 赤目市民センター 小雨決行

講師 / 吉岡正夫さん

観賞場所 / 柏原・風呂屋橋から垣添橋周辺(センターから徒歩で行きます。)

注意事項 / 歩きやすい服装、懐中電灯持参

ホタルを捕まえないでください。低学年は、保護者同伴で。

\*申込み / 6月13日(月)までに、赤目市民センターへお申し込みください。

電話 / 63-0329 (検温・マスク着用でコロナ対策をしてお越し下さい。)

※駐車場は赤目市民センターをご利用ください。(名張ケンコー!マイレージポイント対象)

(新型コロナウイルスの感染予防の為、状況により中止・自由観賞になる場合があります。)

赤目市民センター「ホタル観賞会」に参加を申し込みます。

ふりがな

名前 / (年齢) 歳

住所 / 電話番号 /

## ※6月度「忍たま広場」

6月22日(水)は、「七夕まつり」の竹笹かざり、短冊作りをします。星に願いを込めて、楽しいひと時を過ごしたいと思います。多くのご参加をお待ちしています。 青少年育成部会

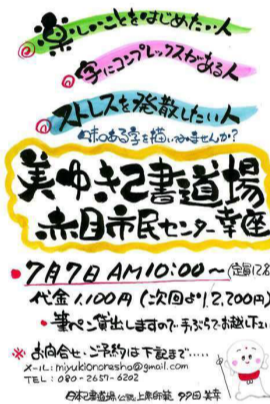
## 6月6日~7月3日までの予定

月	火	水	木	金	土	日
6/6	7	8 ふれあいサロン	9	10	11	12
13	14 市民センター通報消火避難訓練	15	16 サンサンカレー	17	18	19 ホタル観賞会
20	21	22 ふれあいサロン 忍たま広場	23	24	25	26
27	28	29	30	7/1	2	3

※赤目市民センターでは、コロナ対策として、検温・マスク着用・消毒・換気、名簿の作成など、3密(密集・密接・密閉)を避けて運営しています。しかしながら状況に応じ、中止・延期になる場合がありますので、ご注意ください。

## 7月の行事予定

- ★7/10(日) 参議院選挙・竹「風鈴づくり」
- ★7/13(水) ふれあいサロン
- ★7/16(土) 市民大学講座「天正伊賀の乱」Part2
- ★7/19(日) ホタル観賞会
- ★7/27(水) ふれあいサロン・忍たま広場
- ★7/31(日) 小学生 Day キャンプ予定



## --- 只今、参加者募集中 ---

美ゆき己書道場では、体験コースの募集をしています。是非とも一度参加してみてください。手ぶらでも、1人でも気軽に参加できます。7月7日(木)10時より赤目市民センター学習室(定員12名まで)ひやかし、のぞき見歓迎!!  
参加費 1,100円  
詳細は、お電話で。080-2657-6202 多田

## Vol.29 新・歴史散策紀行…「伊賀・赤目文化遺産」(各区・地域の名所・名品を募集しています。)

### 「伊賀が生んだ忍者」

伊賀・名張を語るのに忘れてならないのが、忍者の存在。忍び(しのび)の存在は、「秘(ひ)して秘すべし」が基本。赤目四十八滝は、忍者(修験道)の修業の場と云われる。

ちなみに歴史解釈・認識に大事なことは、歴史的史実(歴史上の事実)があったか、否か。其の文献があるか、論理性・道理が通っているか、現在に残る遺跡・遺品が存在するかが、判断基準とされる。得てして「歴史というのは勝者が伝えるもので、真実は塗り替えられる。」と云われ、道理にかなわなくても勝った者が正義となり、負けた者には不正の汚名がきせられる、勝敗によって正邪善悪が定まり、成功者には、その過程に不正があっても不問にされる。ここでは極力歴史的史実に則って、記述したいと常々思う。しかし今回の話は、残念ながら相手が忍者だけに、雲隠れされそうなので、伝承事も含めた散策としたい。

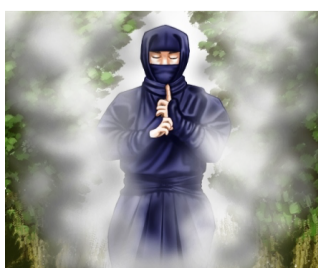
唯一伊賀忍者には、女性忍者「くノ一(くのいち)」がいたと、また伊賀忍者に、「あかめ」と呼ばれるくノ一がいたという。なお専門的なことは、三重大の国際忍者研究センターにお任せしたい。

伊賀流忍者は、上忍三家と云われる百地三太夫(ももちさんだゆう)・百地丹波(ももち-たんば)、服部半蔵(2代目・服部正成(まさなり/まさしげ)、藤林長門守(ふじばやしながとのかみ)の御三家。名張ゆかりの百地三太夫は架空の人物と見る向きも多い

が、資料によると三太夫は1571年に百地清右衛門の子として伊賀国名張中村に生まれた実在の人物。天正伊賀の乱以前は名張竜口に住んでいたが、乱の前に伊賀喰代(ほおじろ)へ伯父の百地丹波と移ったという。記録に見る限り、天正伊賀の乱で国人のリーダー的存在となった人物は三太夫ではなく、丹波と思われる。なぜなら当時三太夫はまだ十歳だったからである。「百地」は「ももち」と読むのが普通だが、地元では「ももじ」と読む。また百地三太夫・丹波共に、世襲制の名前であったとも。三太夫は、安土桃山時代に名を馳せた盗賊・石川五右衛門や、真田十勇士の1人である霧隠才蔵の師匠としてマンガでは描かれている。忍者は、常に歌舞伎や漫画のヒーローでした。

天正伊賀の乱は柏原城を開城して終結したが、三太夫を含む百地丹波守以下百名ほどは高野山に下り、やがて紀州根来の里に定着し、根来忍者に、また百地三太夫はこれをもって歴史から消える。百地家は、服部家・藤林家とも関係があり、服部半蔵正成の兄は、紀州に隠棲していた百地丹波の子・保武を呼んで伊賀藩士に取り立て、伊賀の名門藤林家を再興させる。そして藤林保武が後に忍術書の最高峰「萬川集海(ばんせんしゅうかい)」を著す。紀州に残った弟の正武も忍術新楠流の開祖となり、「正忍記」を著す。

つまり、忍術秘伝書の二書は、どちらも伊賀が生んだ百地丹波の子によって完成された。これこそまさに忍びの秘伝である。



忍者のイメージ



伊賀竜口百地家



伊賀喰代百地邸跡



石川五右衛門



霧隠才蔵



忍者ハットリくん



秘伝書「萬川集海」